



名古屋大須ロータリークラブ

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-OSU WEEKLY REPORT

<本年度クラブ会長方針>

No. 1033

Ever Onward ~いつも前を向いて~



2008-2009年度 R.I. 会長

李 東建 Dong Kurn Lee

Rotary International President

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日 12:30 例会場 名古屋東急ホテル
 会長 小澤 幸男 事務局 名古屋市中区栄4丁目6番5号 丸越ビル6F
 幹事 太田 裕 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008
 URL http://www.nagoya-osu.org E-mail office@nagoya-osu.org

第1217回例会

クラブ奉仕月間

平成21年5月28日(木)

友達を呼ぼう例会

於 名古屋東急ホテル

出席計算数 55名中48名出席

出席率 87・27%

前々回出席率 89・29%

会員 64名

ロータリーソング

「大須ロータリーソング」

指揮者 鬼頭 茂成

ピアノ伴奏 富板 玲子

ゲスト

株式会社エステム環境研究所

環境カウンセラー 井上 祥一郎さん

株式会社H.V.O.X

代表取締役 日比野富士男さん

株式会社フラインメディカル

代表取締役社長 丹下 富博さん

日研工業株式会社

取締役社長 出原 直朗さん

三ツ音会

主宰 筒井 詠子さん

日興コーディアル証券㈱

名古屋駅前支店 支店長 竹井 清司さん

株式会社めいしん

専務取締役 石田 健一さん

名古屋工業大学大学院

工学研究科情報工学専攻 准教授 伊藤 嘉治さん

ナチュラルメティソン株式会社

グリーンダイヤモンドエージェンティ

刈谷 洋子さん

FI SK ENGLISH JAPAN

DIRECTOR

DAVID URBANANAN

ビッター

一宮北RC

パストカバナー 豊島 徳三さん

名古屋RC 水野 金平さん

ニコボックス

友人アヒッド・ウルヒナ君を紹介できました。

豊島 徳三さん

神田 憲

出原さんより。

DEAR TED PDG & DAVID,

ENJOY OUR CLUB MEETING

竹井さんをお迎えして。 新沼 操

日比野さん 丹下さんより。

井上さんより。おひつじがります。

岩崎 征一

大原さんありがとうございます。

伊藤さん、石田さん、みなさん、大須

RCより。

筒井 詠子さんをお迎えして！

吉田 憲一

たくさんのおゲストをお迎えして。

前田 隆久・太田 裕

誕生日です。元気です。佐々木 功

チョット良い事がありました。しかも

ニコです。 横井 衛

お友達の皆様さんよりいろいろしゃいまし

た。 会費組織委員会

皆様こんにちは。今日は今年2度

目の「友達を呼ぼう例会」です。9名

のゲストの皆様、ようこそでした。

常の例会を一度見ていただきませう。最

後までお楽しみ下さい。

会長挨拶

会長 小澤 幸男

卓話

「生物多様性と持続可能な家」

株式会社エステム環境研究所

環境カウンセラー 井上 祥一郎さん

さて、今朝からテレビ、新聞で報道されていますが、アメリカのGMがよい破壊法を申請するようです。私は映画の「アメリカン・グラフィティ」の年代ですので、50年代、60年代の、大型のトラが張ったステイティング型のキャブトラックやシボレー、オールズモビルに憧れていました。最初に買った輸入車も5・7Lのビュイックでした。

あんなに素晴らしい車を作っていたGMがこんなことになるのは...この思いです。早く立ち直って昔のような夢のある車を作って欲しいと思います。



卓話

「生物多様性と持続可能な家」

株式会社エステム環境研究所

環境カウンセラー 井上 祥一郎さん



生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の名古屋開催で、生物多

様性についての議論が盛んですが、技術者としての私見として聞いていただけに幸いです。技術市民という肩書きにはそれなりに意味を持たせていますが、ここでは技術に携わっている市民と簡単に考えて頂ければ結構です。

1. 生物多様性と生態系サービス

生物多様性と生態系サービスは「対」の言葉として出てきますが、本音は生態系サービスにあると思います。何故ならヒト以外の生き物が、意識して他の生き物の評価をするとは考えられないからです。すなわち、ヒトの立場のみた生物多様性や生態系サービスの評価でないと評価そのものができません。生態系サービスの質が低下したので、ヒトにとって都合が悪くなったから何とか手を打たなければならない、というのが本質と考えられます。

具体的には、利益が最重要という効率追求の工業化優先社会を作り、食料が足りなければ質を落とすという思い込みが広がりましたが、食料を貯めておき、水というヒトの命を支える根幹部分が質的に危うくなり、ここに至って「ヒト」も地球という有限の生態系の一員で、生物の多様性が、空気、水、食料等がヒトにとって安全側にあるか、その反対側にあるかが分かるモノサシになることになり、と考えると、分かりますか？

2. ヒトが先か生物多様性が先か？

日本では「多自然川づくり」事業が国土交通省の事業として進められ、生き物の豊かな水辺を人工的に作るということが目的になっています。表向きは生き物が先という印象があります。

ところが本場では少し様子が違っています。

ヒトが先か生物多様性が先かの例をドイツ、フランス、スイス、オーストリアの境界付近を狩猟地とする「多自然川づくり」の現地体験から考えてみることにします。

3年前の2005年秋に現地を訪問しましたが、私が予め準備した質問は「地下水でした。なぜ地下水なのか？最も気になる水源だからです。現地で伺って、河川構造物を作ることによって河床の低下が起ると、水河のモーン田来の空隙率の高い地下構造物なので、地下水位が連動して下がり、農業を営む市民生活に支障が出てくる。また、国際河川に水道水源を頼るのは危険で健康命に直結する水道水源の順位は、一に湧水、二に地下水、三に湖の深層水、最後に河川の表流水としない評価が固まっている」との関係についてです。

河川構造物に頼らない治水を考え、水源である地下水の涵養量の増大策を考へると、氾濫原に水を溢れさせることが最も経済的な手法だったということも「多自然川づくり」の重要なポイントで、それは設計図通りの施工は馴染みず、図面は簡単なものしか無いという発見も



日本版とは大きな違いでした。

その結果として自然豊かな流域が蘇ったもので、最初に多自然川づくりがあったわけではなく、自分達の命の根源を見つめたヒトの都合の技術選択の結果に過ぎないということを現地で学ぶことができました。

3. アメリカのダム撤去は

ソロバン勘定

先の多自然川づくりと同様なことをその1年前にアメリカに行つて見たダム撤去の現場でも学びました。日本のダムの定義は高さ15m以上というつもりですが、アメリカでは取水の堰のようなものも全てダムと呼んでいます。ダムの撤去による絶滅危惧種のサケの保全に代表される生物の多様性向上の結果であり、ダムの補修費とその後の収益、ダム崩壊の危険性と崩壊による補償費用等をトータルで考へると、加えて、高額な国入りの環境補償支払を計算すると、撤去が最も経済的な手段であったと聞きましたので、ソロバン勘定がダム撤去の決め手になっていると学びました。



サケの漁獲が増えてその収益がダムによる収益を下回れば、ダム撤去を選択するケースは増えてくると思われ、それを餌にするフマの食へ残しが森を

豊かにしてそれによる経済性が生まれ

たり、水源の水量増大に繋がったりすればよりダム撤去の選択は増える方向になるでしょう。ダム一つがサケの遡上を80%以上阻むという結果があるように、一つの河川に複数個のダムができれば、漁獲に大きな影響を与えます。勿論、先住民のインディアンの保護政策も関係はしていましたが、それが大きな理由とは感じられませんでした。

4. 生態系サービス契約の認識

将来への期待

翻つて、わが国では生態系サービス契約をヒトの都合で勝手に結び、破棄してききました。契約を結んだという認識がありませんから、契約を破棄の認識もありません。しかし、例えば竹製品を作り、使ったことは生態系サービスを受けたことです。すなわち、竹を使うだけを使い、次世代が使えるように有用な資源は残すという生態系サービスの契約を遂行したことです。竹箆を石油製品に変えたことは、生態系サービスを契約の一方的な破棄でした。ヒトは金目くらんで知恵を失い、一人相撲で自ら現在の苦境を作り出しました。

多自然川づくり、石油製品の氾濫など現状に上記の強い認識がないと、生物多様性の本質を見ないまま、COOP10会議が終われば再び無意識の状態に戻ってしまうと危惧します。将来性は無いから最近読んだ本の中では、石油に変わる木材中の「リグニン」利用、水を燃やす「フлакクライト・プロセス」などの技術に期待したいと思っています。以上

友達を呼ぼう例会

9名のこ友人の方々に参加頂きました。(写真中央、小澤会長の右は、豊島徳三バスターバナー)



『友』インターネット速報

2009年10月10日 No.381
財団が一部プログラムの補助金を削減(一部抜粋)

ロータリー財団管理委員会が、4月の会報で、09-10年度のプログラム予算と運営予算に関して、管理委員会が大変難しい決定を下しました。未来の夢計画のおかげで、私たちは長期的な観点から財団の発展に焦点を当てて考え、判断を下すことができます。しか

しながら、10-11年度に、予定よりも早く複数のプログラムを中止するという決定が下されました。09年7月1日をもって、以下のプログラムへの補助金(奨学金)提供が中止されます。

大学教員のためのロータリー補助金(既に授与された補助金は除く)、ボランティア奉仕活動補助金、文化研修のための国際親善奨学金およびマルチチャイナ国際親善奨学金(既に授与された奨学金は除く)

2009-10年度のマッチング・グラントのための国際財団活動資金は6500万ドルとなり、これは08-09年度当初の予算を70%削減の金額です。地区は、予算削減の影響を受けない地区財団活動資金(DDF)を、人道的奉仕プロジェクトの実施に使用するよう奨励されています。

保健、飢餓追放および人権性尊重(3-1)補助金の予算も大幅に削減されています。このほか一時保留されている補助金があります。詳細は、国際ロータリーのウェブサイトをご覧ください。http://www.rotary.org/ja/StudentsAndYouth/EducationalPrograms/Announcements/Pages/foundation_funding_announcement.aspx

★『ロータリージャパン』日本語版
http://www.rotary.or.jp/contents.html

6月11日(木)例会のご案内 SPEAK OUT DAY

広報委員会
杉本 英夫 ・ 木村 光徳
加藤巴千彦 ・ 佐々木 功